

育G新聞

Vol.13
イクジイが日本を元気にする。
毎月1回連載

育G新聞編集部 編集協力：
NPO法人 フザーリング・ジャパン
NPO法人 孫育て・ニッポン

育G インフォメーション

イクジイ・カフェ

【日 時】3/19(火) 18:30~20:30
 【対 象】中高年男性
 【参加費】無料
 【場 所】東京都文京区アカデミー茗台7階洋室
 【内 容】将来の孫育て、セカンドキャリアを考える座談会。ワールドカフェ。
 【主 催】特定非営利活動法人フザーリング・ジャパン
 【詳細・お申し込み】
<http://www.fathering.jp/ikuji/caf>

イクジイ・スクール 第2期

【日 時】4/25(木)・5/9(木)・5/23(木)・6/6(木)
 6/20(木) 全5回 隔週木曜日 18:30~20:30
 【受講料】全5回：10,500円(税込) ※単科受講も可
 【場 所】東京都文京区・日火江戸川橋ビル会議室
 【対 象】子育て、孫育て、社会貢献に関心のある男性(孫がいなくても受講可)
 【内 容】特別講師陣の講座に加えて保育園にて体験保育実習も行います。
 【主 催】特定非営利活動法人フザーリング・ジャパン
 【詳細・お申し込み】
<http://www.fathering.jp/ikuji/school>

育G登見

No.13

日本ウエルネススポーツ大学特任教授
岩重 慶一さん



横浜「イルカの学校」を主宰、大手不動産会社のアドバイザーを務めながら、大学・専門学校等で生物学的教育を研究。生物学的視点からの子育てアドバイスを孤軍奮闘するお母さんに贈っている。

大手信託銀行員の40歳過ぎから少年時代の鹿児島のイルカに憧れ、イルカと子どもの交流活動を25年行ってきました。在職中に東京水産大学大学院入学。修士号取得と同時に29年間務めた信託銀行を退社、カンボジアにイルカの学校を設立しました。

イルカの研究を続けていく中で、人間は10年早産で生まれてくることがわかりました。イルカは生まれたらすぐに自分で泳ぎ、おっぱいを飲みます。それに比べ人間の赤ちゃんは自分一人では何もできない。生まれはしますが、脳をはじめ未発達な部分が多い。でも、

私たち人間、特に現代の親は、偏差値教育、学歴、競争社会の中で育ってきたので、我が子に少しでも早く偏差値教育に有利になるよう知識を身につけようと/or>する。まだ、人間としての土台ができ上がっていないのに。

現在、私は大学や専門学校で教えるながら、子育てに奮闘しているお母さんたちに、「生物学的視点からの子育て」の講座や講演を行っています。イルカとヒト(脳が完成していない10歳くらいまでの子ども)、人間の脳を比較しながら子育てを科学することで、「10歳までの子どもの認識は大人の「論理」ではなく、全体としてつかむ「パターン認識」であること、10歳までは五感をフル活用して感性を磨き、ゆっくり育て、10歳を過ぎてから知識を身につけることなど、10歳までの子育ての重要性が見えてきたのです。

子育てとは「ヒトを人間にすること」の大仕事。その大仕事を請け負う「お母さん」を私は、育ジイとしてこれからも応援していきます。そして、「生物学的視点からの子育て」を孫育てにも生かす育ジイ、育バアが増えることを願っています。

いわしげ・けいいち

大學では、スポーツプロモーションと動物行動学が専門。日本子ども学会・ヒトの教育の会理事、タイケン学園保育園・幼稚園・日本ベット＆アニマル＊専門学校講師など。「イルカの学校」「イルカと遊ぶ」絵本「おでこちゃんとイルカのねがい」などがある。

日本ウエルネススポーツ大学：<http://www.nihonwellness.jp>
 ブログ：hab21iruka.exblog.jp
 問い合わせ：iwashige@gmail.com

育Gの極意



孫と楽しむ
さくらの開花予想

あたたかくなってくると、桜の開花が待ち遠しいですね。今から募る気持ちは、大人も子どもも同じ。ならば一緒に楽しんでもらいましょう。孫が近くに住んでいるなら、1本の桜の木の開花日をそれぞれが予想し、毎日眺めに行くといいでしょう。遠くに住んでいるなら、地元の桜の写真をケータイで撮りメールやSNSで報告。「桜の花はどうやって咲くの？」と孫に聞かれたときには、花の仕組みを説明するより、いっそ花咲爺になりきって、「ジイジの魔法だよ」と孫の創造の世界を膨らませてあげましょう。



育Gアドバイス

育G stylist G・ハヤシがアドバイス
「春だ、身近な自然観察にいこう！」

自然や生き物には学ぶところがいっぱい、というわけで季節の変化を感じることのできるこの時期、孫といっしょに身近な自然観察に出かけてみよう。

別に遠出しなくとも、孫と一緒に観察するだけで、視点がぐっと低くなるので、よく通る道の途中ですら意外な発見がたくさんあります。
五感をフルに働かせると、おうちのまわりでも鳥のさえずりや水の音、花の香りなどが感じられるはず。
そのときにぜひ持っていってほしいのが、ルーペ。
ためしに、お馴染みのダンゴムシをのぞいてみてください。
「わあ、怪獣みたい！」という孫の声がきこえてきそうです。

ハンディ図鑑も持っていくと、帰り道も楽しくなりますよ。

育G潮流

～将来なりたいもの～

男の子「スポーツ選手」
女の子「食べ物に関わる仕事」

卒業、入学、進級を機に、新たなる目標を掲げ、将来の夢に向かって頑張る子どもたちも多い。

先日発表になった「将来なりたいものに関する意識調査」(2013年バンダイこどもアンケートレポート)によると、男の子の第1位は「スポーツ選手」(28.5%)、2位「運転手」(7.3%)、3位「医師・看護師」(6.5%)であった。「スポーツ選手」の内訳は、「サッカー選手」が14.5%、「野球選手」が10.3%と、サッカーハンマー人気が相変わらず強い。女の子は、「食べ物に関わる仕事」(21.5%)が第1位。中でもケーキ屋・パティシエが15.5%と人気が高い。2位は「医師・看護師」(13.8%)、第3位は「教師・保育士」(11.5%)が続いた。

子どもたちが将来なりたいものは、何から影響を受けているのか？上位は、テレビ番組(男子1位、女子2位)、実際に働

《将来なりたいものに関する意識調査》

男子	1位 スポーツ選手	28.5%
	→サッカー選手 14.5%	野球選手 10.3%
	2位 運転手	7.3%

女子	1位 食べ物に関わる仕事	21.5%
	→ケーキ屋・パティシエ 15.5%	
	2位 医師・看護師	13.8%

2013年バンダイこどもアンケートレポート
対象：3～15歳の保護者

いている人を見て（男子2位、女子1位）、そして同姓の親（男女とも3位）であった。イマドキの子どもたちは、メディアの影響を強く受けているとも報じられているが、この調査結果を見ると、親、自分の目で見たものなど、身近な存在の人、経験が将来のなりたいものにつながっていることがわかる。

大人との関わりが少ないイマドキの子どもたちに、より広い世界を孫に見せることも、現代ジイジの役割のひとつのように思う。ジイジと一緒に見たものが将来の夢につながることも、きっとあるだろう。

(NPO法人孫育て・ニッポン 理事長 ぼうだ あきこ)

